

会 議 顛 末

令和 5 年 6 月 26 日 18:30 ~ 19:40

複合庁舎 1 階 文化会館リハーサル室

出席者 11 名 泉委員・石平委員・西田委員・斉藤委員・中村委員・上用委員
(市) 北市長・山下市民生活部長・奥田課長・高見係長・安西

司会～奥田課長

1. 開会

2. 辞令交付

3. 北市長あいさつ

少子高齢化が進む現在においては、男女が活力のある社会の実現に向けた男女共同参画が社会に求められている。一番大事なのはこの推進委員会の中で男女共同参画についてお話しいただき、その考えを情報発信していくことに意味があると考えます。

まだまだ、富良野にというより日本全体に不必要な固定観念といわれるものがあるようで、そういったものを皆さんが言葉に表していくということが大事なかなと思う。

男女共同参画推進については、国も 1999 年法律を定め取り組みを進め、20 数年が経っているが歴史の中で当初考えてきた形から、少し変化してきている。ジェンダーギャップがでてきたり、たとえば女性が社会参画を成し遂げていくとき、自分のビジネスプランをしっかり作って望む、自分たちの思いをきちんと形に変えていくということが求められている。男性の方にもこういったビジョンを描けないでいるということがありますから、今担い手が足りなくなっている状況で、ただそこに女性が参画すればということではなく、働き方改革が今求められていますけど、総体として社会をどうしていくのかというのが広く求められ、様々な見識が議論されるというのが大事になっていく。そういった意味では富良野の社会でも男女共同参画の中で明るく発展的に捉えられるように委員のみなさまのご尽力をお願いしたい。

4. 会長及び副会長の選出

会長に上用委員、副会長に泉委員を選出

上用会長挨拶

男女共同この問題については、言葉を選んで話さなければならない。そういった問題もあって結構難しいなと感じます。こういう場ですのでざっくばらんに皆様の意見を聞きながらこの委員会が広まるように進めていきたい。

5. 報告・協議事項（上用会長が議長となり進行）

(1) 第 2 次富良野市男女共同参画推進計画の令和 4 年度推進状況について

(2) 令和 4 年度セミナー開催報告

事務局より説明

上用会長 コロナが 3 年間続いたが、このコロナ禍の影響は男女共同参画に関して大きな変化はあったかどうか。

事務局 男女共同参画に限らず、コロナの3年間というのは色々な取り組みができない状況、あるいはやったにしてもウェブを使った講習会に形が変わっていったが、令和4年度くらいからは以前の活動ができるようになってきた。

上用会長 コロナ渦では仕事がないとか、特に女性がかかり就職難で困ったというのが新聞ニュースにあるものですから、どの程度回復したのか、していないのか、男女共同参画においてはコロナの3年間は非常に重たかったかなと思う。

泉委員 医療のことが気になる。健診は人数的にどうなのか。ぱっと見る限り少ないような気がする。健康でないと何ごとに関しても難しい気がする。

斉藤委員 この3年間集団の中に入って健診を受けることを避けている方もいる。コロナ前と比較してみればわかるのでは。

事務局 男性は正規職員の雇用形態が多いので必ず職場で健康診断を受けるが、女性の場合パートや短時間労働になると会社で受ける機会がない。市保健医療課で呼びかけてはいるが健診率が上がらない一つの要因ではないか。

西田委員 昔の資料を見ると令和元年度で50.2%となっている。

上用会長 男女共同参画というのはなかなか進まない。世界の中でも日本は最下位くらいで、たとえば北欧の議会では女性が6割7割占めて、日本の一部の議会の写真を見ると男性ばかり、違いは何か根本的になにかあるのか、一生懸命やられているのになかなか浸透していかない。ごみの分別の格差のない取り組みまでしなければならぬのか、家庭内の役割を格差のない取り組みを言っているのだと思う。

石平委員 子どもの教育のことで海外から問い合わせがあり、日本のこどもたちと接触をさせたいと、中国の方なのだけど日本語ができるのでサマーキャンプをしたい。8月5~6日に子供会のキャンプがあるので紹介をしたのと、私が調べたのが東川町で大雪山イングリッシュキャンプが8月6、9日とある。富良野塾で8月4~7日と行われている。富良野でも与論島に子供たちを送ってコミュニケーションをとろうとする中で、富良野はあこがれの地なので、子どもを地元の子どもたちと交流させたい、自然体験をさせたいとか、大人だけが楽しむのではなく、教育プラス体験というのを富良野というブランドが広まることによって、価値観がでてきた。ただ残念なのは安全とか安心とか管理がきちんとしている自分の範囲のなかでお知らせをしているが、日程が重なっていてよくばりができない。富良野の子供たちもいろいろな体験をさせてあげたいとなると日にちをスライドさせてあげるといいかなと思う。

産休に関して、第1子の場合は体調が悪いと入院すればよいが、第2子となると第1子の2歳未満の子供を夫が子供をみながら、仕事をしながらはすごく大変。人口を増やすということは、育てるとか生むことに対して、もうちょっと支援しとあげないと安心して出産できない。

女性の就職の割合ですが、コロナによってタクシーのドライバーが半減した。富良野は60歳以上のドライバー多かったので、コロナによって半分になった。

女性のドライバーが増えてきている。富良野の足の不足というのは、観光にもすごい打撃になっており、夜タクシーが動いていない。せっかくコロナが5類になっても、2次会の習慣が戻りたくても足がないから戻れない。

子育てがある程度一段落したママさんもいるし、第2種の免許を取っていただいて、子育てをするというのはお金もかかるから、子どもが学校に行っている間に免許をとるとか、ドライバーになるとか、そういうのも市で負担してあげないと。家庭で頑張っている主婦の方にも社会に出ていただいて、経済効果に社会に目を向けていただくみたいなきっかけに。女性のタクシードライバーが増えてきている気がしますが、もっと他の職場でも女性が働ける場所があると思うし、男性がもっと育児に関われるのも、支援とかちょっとしたきっかけ、皆さんのアイデアを集めればいいものができるかなと思う。

事務局 北海道はキャンプのできる時期が8月の中旬に限られてしまう。キャンプに限らなければ冬の行事など選択肢を増やしていける。

石平委員 子供が少ないので移動はしやすいと思う、井の中の蛙で育てるのではなく視野を広げる。行けないのなら呼ぶとか非日常的なちょっとしたつながりは子どもにはミラクルなので、そういうのを作っていただければうれしい。

斉藤委員 今話を聞いていて、与論島に行くということと、迎えるということでは、子どもたちの活動内容も変わってくると思うので、良い案があれば迎えて上げられれば。

石平委員 迎えるということは準備がいるわけで、外国人に対し気負いをしないように自分たちがセミナーをして、そういうことで意識が変わる。市でいろいろなツールをつくっていただければ、子どもたちは成長していける。

西田委員 学校現場では子供たちに意識して指導していない、男女共同というのは先生方も男だから女だからということはない。子供たちはキャリア教育として目の前の大人をみて育つ、おうちの方だったり、教師が一番家族に次いで長く、そうした大人の一挙手一投足を見ながら将来自分はどんな大人になろうかとプランを立てていると思う。女性でみなさんのように活躍している人をできるだけ体験的学びの中で、機会があればふれあう時間をつくれれば、一つのカリキュラムマネジメントと思う。

今まで校長は男性だったので、女性の校長もいるのだ、女性の教頭もいるのだなということで、女性もいろんな仕事をしているのだとあたりまえのことで受け止めてくれていると思う。また職業体験などですてきな女性を目にしながらか成長してほしい。

上用会長 学校社会の中で改めて男女共同を話たりしない。女性の校長がいるということは子どもたちにとって視野を広げる意味では違うと思う。社会の中でいろんな大人たちが頑張っているのだということと、こんなところでも女性が頑張っているという姿をいろんな形で見せてあげれば、目指す女性像が膨らむかもしれない。

中村委員 市役所の女性の割合を出してくれたが、一般の企業ではどうなのか。健診について、働いている旦那さんが会社で受けてくれればいい。自分はわざ

わざわざお金をだしてまで受けなくてもいいというのがあるので、受けないというのがあるのでは。補助でもあれば率があがるのではないか。

事務局 扶養者でも受診できる仕組みがあるが、会社だと受けなさいとアプローチがあるけど、扶養者の場合券は配られるけど強いアプローチがないということで、強めていかないと伸びてはいかない。

上用会長 これから男女が住みやすいまちづくりに市役所の職員とわたくしも含めて考えたいと思う。みなさんも身近なところからごみ捨ては、この人だよというのではなく、仕事も役割もみんな平等であり、一つの家庭を作るのはみんな平等だという形の基本精神にのっとって自分の家庭から隣の家庭、広まるかどうかかわからないですけど、尊重しながら男女が仲良く楽しく頑張れる社会づくりを私たち自身ができればと思う。

事務局 皆さんからいただいた貴重な意見、アイデアを事業化、仕組み作りができれば良いと考えています。また、女性が活躍しているような職業体験などもとてもおもしろいアイデアと思います。自分たちの課だけでは達成できませんので、各課横断的に連携して実現できないか検討していきたい。